

各 位

病害虫防除所長

平成 23 年度病害虫発生予察技術情報資料(第 5 号)の送付について

ミツユビナミハダニがナス科雑草に発生!

平成 22 年 10 月 18 日付け特殊報で発表したミツユビナミハダニが、本年 7 月に高知市内のナス科雑草(イヌホオズキ)に寄生していることを確認しました。その後、香南市や南国市の数カ所においてもイヌホオズキへの本種の寄生を確認しています(写真 1~4)。

本種は、ナミハダニ属の中でも非常に高い増殖能力を持つこと、捕食性天敵のミヤコカブリダニ及びチリカブリダニによる防除効果が低いことなどから、特に天敵導入率の高いピーマンやシトウ産地での発生を懸念しています。各地域においてイヌホオズキ(写真 5)、センナリホオズキ(写真 6)、ワルナスビなどのナス科雑草及びナス科野菜における本種の寄生に注意し、育苗ハウスや本圃への侵入に警戒してください。

については、県内での発生状況把握のため、本種と思われるダニの発生を確認した場合は、各農業振興センター、病害虫防除所へ連絡をお願いします。

参 考

(1) 分 布

国内では平成 13 年に大阪府の雑草イヌホオズキで発生が初めて確認されて以来、京都府、兵庫県、東京都、鹿児島県、沖縄県のナス科雑草及びミニトマト、ナスで発生が確認されている。

(2) 生態的特徴

体色は、雌成虫はくすんだ淡橙色、雄成虫は白~淡橙色。大きさはカンザワハダニ、ナミハダニとほぼ同じである。休眠性は示さず、ナミハダニ属の中でも非常に高い増殖能力を持つ。植物の葉裏に寄生し、寄生部位を著しく白化させ、高密度になると植物が枯死する場合もある。

(3) 寄生植物

本種の発生が確認されている植物は、ミニトマト、ナス、ワルナスビ、イヌホオズキなどであり、ナス科植物以外への寄生は確認されていない。

(4) 防除対策

・ほ場周辺のナス科雑草(イヌホオズキやセンナリホオズキ、ワルナスビなど)は、本種の発生源となる可能性があるため除草に努める。

・ハダニ類に登録のある殺ダニ剤に対する薬剤感受性は、成虫・幼虫・卵のいずれも高く、他のハダニ類との同時防除が可能である。また、カブリダニ類・捕食性カメムシ類への影響の少ない殺ダニ剤の利用により、天敵利用ほ場でも本種の密度抑制は可能と考えられる。



写真1：寄生により枯死寸前のイヌホオズキ



写真2：葉裏への高密度の寄生



写真3：葉裏への寄生状況



写真4：雌成虫



写真5：イヌホオズキ(枠内は花(白)と実(紫))



写真6：センナリホオズキ(花は黄色)